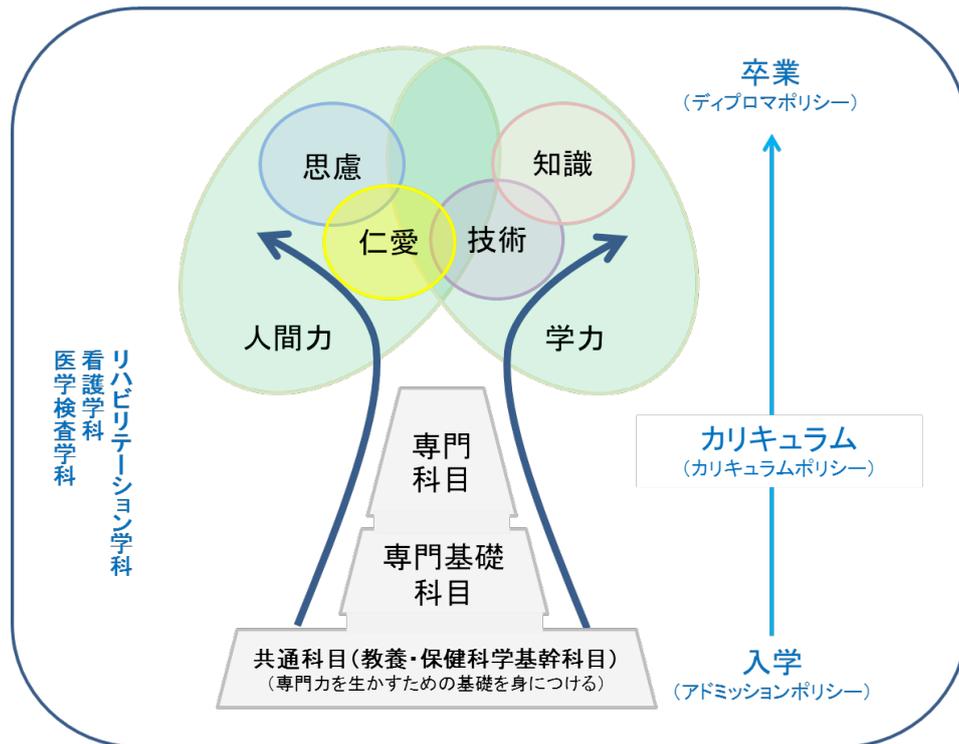


● 本学の教育システム（教養科目と専門科目との関連性）

社会に求められる人材を輩出するための教育システム



本学では、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を大学の「4つの柱（4綱領）」として、保健医療分野の教育と研究を通して、社会に貢献できる医療技術者を養成しています。「4つの柱」のうち、「知識」「技術」は“学力”、「思慮」「仁愛」は“人間力”に対応するものと考えられます。本学の入学者受け入れ・選抜の方針（アドミッションポリシー）に基づいて入学した学生の皆さんが、「4つの柱」を基本とする卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）で述べている力を有する人材となるように、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）に沿った教育を展開します。

図は、本学での入学から卒業までの教育課程の流れを木（Tree）でイメージしたものです。木の根っこは共通科目（教養科目と保健科学基幹科目）であり、専門基礎と専門科目からなる木の幹につながります。木の幹は、根っこから基礎力という栄養分を吸収して専門力を身につけ成長し、卒業時には、大学生活で培われた“学力”や“人間力”という“葉”をつけ、そして知識、技術、思慮、仁愛という大きな“実”をつけます。

具体的には、学生は、初年次には教養科目と保健科学基幹科目からなる共通科目を中心に学び、人と関わっていくうえで必要となる思考力や感受性、コミュニケーション力など、専門科目を学ぶための基礎力を養います。2年次には専門科目、3年次にはより高度な専門科目や長期間の学外（臨地、臨床）実習、4年次では、創造力、問題発掘力・解決力やプレゼンテーション力が必要な卒業研究などの総合的な知識や技術を必要とする科目を学び、“学力”を養います。この4年間のカリキュラム以外に、ボランティア活動、クラブ活動、短期海外研修・留学などの課外活動を通して、人に対する思いやり、忍耐力やコミュニケーション力などの“人間力”を養って卒業することになります。